栃事研会報

第 92 号　平成 30 年 2 月 27 日発行
栃木県公立小中学校事務職員研究協議会
編集発行人　廣田　則子

＜主な内容＞

□　副会長あいさつ、研究大会　・・・ｐ１
□　受賞者あいさつ　・・・ｐ２
□　ｽﾃｰｼﾞⅡ研修、共同実施推進会議　・・・ｐ３
□　ﾘｰﾀﾞｰ研修、お知らせ　・・・ｐ４

栃事研ＨＰ　http://tochijiken.org/

「質の高い学校事務をめざして」

栃事研副会長　吉田 崇

学校概要案内のリーフレットに「本校は市の南東部田園地帯に位置し、三世帯同居の家庭が多く…」と書かれています。「そうか～と思いつつも、でも本当にそうなのかな？」と考え、各学級の家庭調査票のファイルを借りて調べてみました。すると、三世帯家庭は思いのほか少なく、核家族化が進んでいることが分かりました。保護者の職業についても農業を営む家が多いように思われていましたが、実際には専業農家は少なく、会社勤めをしながらという兼業農家が多いことも分かりました。「本校は市の南東部田園地帯に位置するが、近年、専業の農家の戸数は減り三世帯同居の家庭も少なくなってきている。」といった内容に書きかえる必要性が出てきました。問題は、固定化・形骸化されたイメージのもと文章の見直しがされていなかった点です。その原因は、確認が煩雑で教員にとって負担となってしまうことや、また、調査の必要性そのものがあまり感じられていなかったこと、保護者や地域の状況が子どもたちに及ぼす影響にあまり重要性を感じていなかった、といった要因が考えられます。記載する以上は正確な情報を掲載するとともに、よりどころとなる数字が必要となります。集計の煩雑さをクリアするには、児童名簿のデータベース化の一環として世帯構成を数値入力すればよいので、ここは事務職員の得意分野、私たちの出番となります。さらにこれを共同実施の場に持ち込めば、各学校の地域特性の根拠ある把握につながり、比較の結果を各校に持ち帰り社会科や総合学習へ活用することもできるのです。

「質の高い学校事務」を進めるとき、「学校事務の“質”ってなんだろう。」と常に考えていくことはとても重要で“質”を意識しながら仕事を進めていくことが大切です。一方で、「できることからまずやってみる、その積み重ねで質が高まっていくということもあるのではないか。」そう感じた出来事でした。

平成29年度栃木県公立小中学校事務研究大会

１２月１日（金）、教育会館において、平成２９年度栃木県公立小中学校事務研究大会が開催されました。今大会はサブテーマを「学びづくりは未来づくり、描こう！私たちの向かうべき道を」とし、学びづくりへの参画のために私たちが踏み出すこと、そして事務職員の向かうべき道を探ることを目的としました。

全体研究会は、文部科学省初等中等教育局参事官　木村　直人氏の基調講演から始まりました。これからの学校について「地域・保護者とともに子どもに確実に生きる力を身に付けさせ、未来に子どもたちが夢をもてる魅力のあるまちづくりをしていきましょう。」そして「それには、事務職員が教育委員会、保護者・地域と渉外・交渉・連携をして情報管理・マネジメントを行い、事務職員の強みを生かしてカリキュラムをコーディネートしていくことが必要だ。」と熱く語られました。

続いて行われたワークショップ（バックキャスト）は、席の近い者同士で７～８人のグループを作り「こんな事務職員になりたい」の目標を出し合い、そこから「理想に対して何が足りないか」、それに対し「明日から何をする？」を考え、明日から確実に一歩踏み出す事柄をそれぞれが明確にすることができました。

シンポジウムでは、栃木県義務教育振興協議会長　長谷川　武士　氏、宇都宮市立昭和小学校長　浪花　寛氏、栃事研会長　廣田　則子をシンポジストに、栃事研研究部長　相澤　恵美子がコーディネーターを務め「子どもの学びの充実に果たす事務職員の役割」について議論を行いました。長谷川先生から「教育に関わる全ての者が連携をし、目指す子どもの姿や多くの情報を共有することで、困難があっても乗り越えられる。」、浪花先生から「高い理念をもち、共有することで質の高い教育が実現できる。」と、お話しをいただきました。「当事者意識を持ち、力量形成を図って理念達成のために頑張っていきましょう。」と締めくくりました。

午後の部は、「教育功労者」並びに「とちぎ教育賞」を受賞された４名の方の表彰式が行われました。

続いて、平成３２年度第５２回関東地区学校事務研究大会（栃木大会）実行委員会発足式では、実行委員長 渡邉 哲夫より、関東一円の仲間と現状・課題を共有し、多くを「語り合える（熟議できる）」大会にしたいと趣旨説明がありました。

次に、とちぎ学校事務ビジョン推進チーム　佐瀬　葉子サブリーダーより「とちぎ学校事務ビジョン」と「チャレンジプラン」の成果と課題について「５年間の成果と課題を整理・検証し、次期ビジョンへつなげ、経営参画の実践の拡がりのための検討をしていく。」と報告がありました。

続いて、平成３０年度に開催される５０周年記念全国公立小中学校事務研究大会（千葉大会）ＰＲでは、映像を交えＰＲをいただきました。

地区発表では、安足地区足利支部より「チーム足利 学校財務運営への道」～できたがね！ 学校財務委員会！いきいきと学ぶ子どものために～をテーマに、発表がありました。教育効果を高める学校財務運営を目指して、市教委や校長会・教頭会と連携・協働した各種検討委員会や学校間連携推進ブロックにより、校内組織への学校財務委員会の位置付けや事務職員の力量形成を図るための取組、さらに各学校や学校間連携推進ブロックでの実践が発表されました。また、模擬学校財務委員会を実践する中で「わーくしーと」を活用し、学校財務運営について会場の皆様と共に考えました。

最後に「“明日から確実に一歩踏み出す事柄”を経営参画の実践を拡げる第一歩とし、教職員・地域・保護者と連携をして、高い理念のもと、実践につなげて欲しい。」と吉田副会長が振り返りを行い、研究大会を終了いたしました。

受賞おめでとうございます

◆教育功労賞◆

宇都宮市立旭中学校
事務長　檜山　幸子

このたび、思いもかけず身に余る表彰をいただきました。これもひとえに、栃事研はじめ皆様のご支援のおかげと感謝しております。これからも一層精進してまいりますので、ご指導賜りますようよろしくお願いいたします。

◆とちぎ教育賞◆

小山市立羽川小学校
事務長　寺本　浩子

「とちぎ教育賞」の受賞に際し、驚きと同時に今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました。これからも楽しんで仕事をしていきたいと考えておりますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

◆とちぎ教育賞◆

那珂川町立馬頭小学校
事務長　大森　健史

「とちぎ教育賞」受賞にあたり、驚きと共に大変恐縮しております。多くの方々に支えられ、自分のできることに取り組むことができたからだと感謝しております。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

◆とちぎ教育賞◆

佐野市立城北小学校
事務長　佐瀬　葉子

これまで導いてくださった諸先輩方や、関わってくださったすべての方への感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、微力ではありますが、とちぎの子どもたちの学びの充実を目指し、励んで参りたいと思います。

ステージⅡ（職務領域拡充期）研修　組織マネジメント　H29.10.17

今年度のステージ別研修は、講師に日光市教育委員会事務局学校教育課　副参事兼教育指導係長　岡本　一穂　氏、同じく主幹兼指導主事　森山　泉恵　氏の２名をお招きし、採用４～９年目の事務職員　５８名が参加しました。

スタートに、脳内メーカーをイメージして、「頭の中をしめる仕事の内容の割合」を交えての自己紹介を行いました。給与・旅費など定型的なもの以外に、児童・生徒や教員とのコミュニケーションの割合が高かったり、自分のスキルアップに力を注いだりと日頃の意識の高さが伺えました。講義では、経営、マネジメント、ＰＤＣＡサイクルについて、そして学校におけるマネジメントの成功の条件について説明がありました。それらをふまえ、研修のテーマを「プロジェクト・マネージャーをまかされたら」とし、問題発見からプロジェクトチームの立ち上げまでの課程を、様々な手法を使って研修しました。「問題を発見するために不正をしてみよう！」と、業務の中でどのような不正ができるのか話合ったところ、驚くほど様々な方法が挙げられました。そこから何が問題点なのかを明確にし、解決策を考えました。さらに、プロジェクトメンバー（上司・同僚）を説明・説得するためには①情熱を持つこと②ピラミッド型で話すこと③階段状に合意を取り付けることの３要素が重要だと説明がありました。

最後に、プロジェクトチームの企画書を作成し発表しました。「グループで話し合ったため、自分だけでは気付けないことに気付けた」「思考の幅が広がった」「研修で学んだことを活かし、業務改善に繋げたい」などの感想があり、翌日から仕事に生かせるツールを得られた有意義な研修となりました。

共同実施推進会議　H29.11.7

今年度の共同実施推進会議は「とちぎチャレンジプラン」最終年度でもあり、共同実施の全県実施を前提に、活発な話し合いが行われました。

まず、栃事研会長 廣田則子より、「事務職員の職務規程の見直しや共同実施法制化に伴い、学校にいる唯一の行政職員として専門性を発揮し、子ども達の学びの充実と質の向上に貢献・寄与していくことが求められている。共同実施はやる、やれないではなく、成果を上げて形を残していかなくてはならない。本日は、そのステップになるような、そして共に同じ方向を向けるような会議にしたい。」とあいさつがありました。

次に、栃木県教育委員会事務局教職員課管理主事　土方　勝　氏より共同実施の法制化までの流れの説明があり、「推進会議を通して共同実施のよさと課題を再確認し、栃木の子どもたちのための共同実施となるよう協力してほしい。」とあいさつをいただきました。

そして、ビジョン推進チームリーダー　渡邉哲夫より本日の日程とねらいについて説明をし、「共同実施は全県実施に近いところまできているが、各市町の取り組み状況には違いがある。各市町の５年間を振り返り成果と課題を確認していただき、共同実施が学校そして子どもたちに還元できる仕事組織であることを協議してほしい。」と話し、全体協議に入りました。

各市町から成果と課題について話をしていただいた後、今後の共同実施の方向性や展望について協議をしました。地教委・校長会等の理解を得て、管理規則等が整備されていることで共同実施が推進していく。では、そのためにはどうしたらいいかということを、改めて確認しました。また、各市町それぞれの特性を生かして、いろいろな形で共同実施が進んでいることが分かりました。

最後に、「まずは箱づくり、“とちぎが考える共同実施”の５つの条件のア、イにこだわって推進してきたが、平成２９年度の法制化により進んできている。ハード面は固まってきたので、これからはソフト面を考えてい

かなくてはならない。個人的に経営参画するだけでなく、組織として何ができるか、地区でもよい意見があれば栃事研に挙げてほしい。」と渡邉リーダーがまとめ、共同実施推進会議が終了となりました。

ア･･･　共同実施要項等、規則や規定が整備されている。
イ･･･　共同実施推進委員会、連絡会などが開催されている。
ウ･･･　共同実施を行うためのリーダー研修が実施されている。
エ･･･　共同実施の目的を明確にし、評価を行っている。
オ･･･　共同実施に伴い、市町全体における処理システムの変更や、事務処理要項の整備などが行われた。

リーダー研修　H30.2.8

今年度のリーダー研修は、講師に前橋工科大教職センター教授　小林　清　氏を、さらにアドバイザーとして群馬県藤岡市立東小学校主幹事務長　佐藤　隆幸　氏と、藤岡市立鬼石小学校主幹事務長　篠崎　ゆみ　氏をお迎えしました。

午前中は小林教授より『共同実施を推進するリーダーの在り方』について講話をいただきました。第１部「共同実施の目的及び背景の理解」第２部「リーダーシップ発揮の不安とその克服」第３部「共同実施組織を効果的にマネジメントするポイント」第４部「共同実施の運営方針の作成」の４部構成で、各地区５名×４チームに分かれ、ホワイトボードミーティングを展開しました。

第１部では、共同実施において特に重要と思われる活動を３つ、各チームで話し合い発表を行いました。小林教授からは、発表をうけ、共同実施の理想と現実、チーム学校としての在り方などの説明がありました。第２部では、リーダーシップを発揮していく上での不安感などを話し合い、言語化し発表しました。「リーダーとして大切なことは一歩踏み出していくこと。研修の場で力量を身に付けていくこと。不安感は先の見通しが立たないからで、シミュレーションをして前進していく。自分らしいリーダーシップを。」とのお話が重ねてありました。第３部では、マネジメントをする上でのポイントの説明がありました。まず自分自身を見つめ直し、次に他者を観察し、グループワークで新たな知見を創出し、新たな理論形成を行いました。目的・目標・何のために行うのかを明確にしていくことの大切さをご指導いただきました。第４部では、「共同実施のためには、リーダーはメンバーのベクトルを合わせ、説明、共有し、その上で思いを入れ込むとよい。“リーダーは語る人だ”」とのお話がありました。また、主幹事務長のお二人から、群馬県内のご自身の地区の共同実施についてお話いただきました。群馬県では、事務長の辞令発令＝共同実施責任者になるとのことです。お二人は小林教授主催の「ハートの会」という研究サークルに参加し、ミーティングを重ねる中でリーダーという立場に尻込みをせず、自分の中で挑戦しようという意欲がわいてきたそうです。「共同実施はやらなければならない」「一歩踏み出すことが大切である」と実体験をもとにお話をいただきました。最後には参加者全員に振り返りシートを記入していただき、終了となりました。

栃事研よりお知らせ

・平成 30 年度栃事研総会並びに研修会　　平成 30 年　5 月 31 日（木）宇都宮市文化会館
・平成 30 年度公立小中学校事務研究大会　平成 30 年 11 月 30 日（金）宇都宮市文化会館